



## 伝統と創造 文化の花開く 致芳地区文化祭

11月4日(金)～6日(日)第44回致芳地区文化祭を開催しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、通常の3日間開催とし、2年間自粛していた「芸能発表」ともち振る舞いも実施しました。

今年の展示部門は、例年出展して下さっている方に加え、新たに出品して下さった方の作品が目まじりました。特に、当館で企画した「ほだき教室」の受講者らで結成した「ほだきの会」のリメイク作品は、会場の1室を埋め尽くし、来場者の好奇心を掻き立てました。

3年ぶりに開催した「芸能発表」では、感染予防対策として間隔を空けた観覧席を設けて実施しました。今年は7団体の出演があり、日頃の練習の成果を披露してくださいました。出演者からは「いつまでもコロナに負けてはいられない。また出演することができたことが何より嬉しい。」と言った前向きな声が寄せられました。

会場の外では、大人気の「ALL致芳市」を開催しました。今年19店舗が出店し、色とりどりのテントが軒を連ねました。中でも秋の収穫物を求める人が多く訪れ、開店早々、売り切れとなる店舗

もありました。また、致芳小学校PTA役員が中心となって運営している「フリーマーケット」は、2年目を迎えました。今年度は、昨年実施したスキー用具に加え、チャイルドシート(ジュニアシート)や自転車用ヘルメットの出品も地区内に呼びかけ実施しました。高価なものや地域内で譲り合うことを目的としており、「致芳版SDGs」とも言える取り組みです。購入された方からは、「まだまだ使えるものを安く購入することができて助かる。」と言った声を聞くことができ、PTA役員の方々は早速、来年の構想を立てていました。今後、学校と協力し合いながら、子ども達を温かくサポートする体制づくりを目指したいと思えます。

午前の芸能発表終了後、「もち振る舞い」を行いました。3年ぶりの振る舞いを待ち侘びた来場者が長蛇の列をつくりました。「これが致芳の文化祭よ。」と言ひ合いながら、笑顔で納豆餅を頬張る姿を見ることができ、改めて地域交流の場の大切さを感じました。文化祭も地区運動会同様、見直しをはかりながら、より多くの方に楽しんでいただける内容を作り上げていきたいと思えます。皆様のご意見やご要望をお聞かせいただければ幸いです。